

活動報告書

報告者氏名：新城 理奈

所属：沖縄県立西崎特別支援学校

記録日：2015年2月14日

【対象児の情報】

- 学年：小学部3年 男児A
- 障害名：知的障がい併せ有する自閉症
- 障害と困難の内容



昨年度

- ① 要求手段をもたないために泣いたり相手をつねったりして想いを伝えていたが、iPadをVOCAとして活用することで想いが伝えられるようになり、問題的な行動が減った。
- ② 「伝わる」実感の繰り返しから、要求手段はVOCAのみならず、書くことや話すこと（一語文から二語文への広がり）と要求手段が増え、人と関わる力も高まった。



今年度

- ① 昨年度の取り組みから、したいことや欲しいものを書いたり話したりして伝えることができつつあるが、相手の発信に対して応えることは難しい。
- ② 一日の予定を文字で提示されると理解し活動できるが、自分で予定を立てたり見通しを持ったりする手段をもっていない。

〈発達検査より〉

・NC-プログラム 上限領域：「視覚操作」「読字」「書字」 / 下限領域：「言語理解」「言語表出」

【活動目的】

- 当初のねらい：① 楽しいを受け止める経験を積み重ねることで、相手の発信に応えることができる。
② 見通しをもつ手段を広げ、安心した生活を自分でつくることできる。
- 実施期間：2013年4月22日～2015年2月
- 実施者：新城 理奈・諸見里 咲 (2014.10～)
- 実施者と対象児の関係：学級担任

【活動内容と対象児の変化】

- 対象児の事前の状況
 - ・好きな絵本（はらぺこあおむし、おおきなかぶ、おべんとうバス）を声に出して読むことができる。
 - ・ひらがなやカタカナで物の名前を書くことができる。
 - ・野菜や果物、乗り物などのカテゴリーの理解は難しいが、家族構成（パパ、ママ、お姉ちゃん、おじいちゃん、おばあちゃん）は理解できつつある。
 - ・したいことや欲しいものを、VOCAの音声と一緒に声を出して要求することができる。
 - ・簡単な要求は音声言語（主に一語文）や「筆談パッド」やホワイトボード等に書いて伝えることができつつある。
 - ・ホワイトボードに書いてある予定を見て見通しをもつことができる。
 - ・4歳からパソコンを使い始める。好きなアニメをYouTubeで検索したり、好きなゲームで遊んだりしていたため操作に慣れている（規則性のあるものを好む）。
 - ・iPadは、幼稚部から触れており、ロック解除、タップ、ドラッグ、ピンチイン・アウト、好きなアプリの選択など、基本的な操作が一人でできる。
 - ・「サウンドータッチ Lite」「ゆび10」など、音のフィードバックがあり感覚的なアプリを好み、自分で操作して遊ぶことができる。



▲A児のiPadの画面



▲「アイスクリーム」と書いて想いを伝えるA児

○ 活動の具体的内容

① より複雑な伝達をめざした VOCA アプリ「Drop Talk」の活用

昨年度は、操作が簡単な VOCA アプリ「ねえ、きいて」を iPad で活用した。必要なシンボルなど自分で撮影し、活用するなど A 児のシンボルの理解が進み、発信手段が広がった。そこで、日常生活での活用を進めていくために、携帯性や即時性の高い iPhone を活用。VOCA アプリは、より複雑な伝達ができる「Drop Talk」を活用した。

② 履歴によって双方向のコミュニケーションを「見える化」した「By Talk」の活用

A 児はこれまでも、アルバムや学習したプリント教材、教師と保護者間の連絡帳を引き出しから引っ張り出して見ることが好きであった。また、iPad で撮影した写真や動画を見ることも好きであった。「変わらない過去」に安心感が持てるのだろうと保護者と確認した。



▲履歴を見て楽しむ A 児

そこで、この安心感を双方向のコミュニケーションにいかせないかと思い、「By Talk」を活用して「宝探し」ゲームに取り組んだ。「言葉のやりとり」を履歴でいつでも見返すことができる安心感から、双方向のコミュニケーションの理解を図った。

③ 自分で予定を記録し、見通しをもつ手段を広げたカレンダーアプリの活用

A 児は学校や家での予定はスケジュールボード（手書きや、絵・写真カード）で理解していたが、自分でいつでも確認できる手段をもっていなかった。見通しがもてることは、安心して生活を送ることができ、予定を相手と交渉するということにもつながるため、写真や文字で簡単に予定を入力することができるカレンダーアプリ「PhotoMemes」を活用した。



▲教室に掲示されているスケジュールボード

○ 対象児の事後の変化

① 「Drop Talk」の活用

これまで活用していた「ねえ、きいて」は、操作が簡単そのため、自分で撮影しシンボルを増やすなどして A 児の表出言語を促すことができた。しかし、追加したシンボルがランダムに配列され、配列の組み替えが難しかった。

しかし、「Drop Talk」では複数のタブを設定できるため、「ともだち」「せんせい」など、カテゴリーごとにシンボルを追加することができた。同じカテゴリーの写真が一画面に配列されているため、視覚優位の A 児にとってカテゴリーの理解がわかりやすかったようである。少しずつ「いつ」「どこで」「だれと」の質問にも応えることができつつある。

また、日記指導で「いつ」「どこで」「だれと」「何をした」と枠組みしたシートを提示すると、DropTalk の画面を見て選択しながら、文を作ることもできつつある。



複数のタブがカテゴリーの理解を進めた

② 「By Talk」の活用

受信した画面を見て宝探しに取り組んだ。A児の行き慣れた場所、関わることが多い養護教諭や図書司書に協力してもらい、A児の好きなiPadや本を探すことで、楽しく取り組めるようにした。A児は、教師から発信された文字と写真を手がかりに目的の場所へ行くと好きな活動ができる、という楽しい経験を積み重ねた結果、メールでのやりとり（受信・発信）を理解することができつつある。

また、履歴を振り返ったり、その履歴を教師に見せて「保健室に行ってきます」「図書室に行ってきます」と言葉で伝えてかけるなど、経験を本人なりにつないでいる様子が見られる。

宝探しを始めて半年後、フリック入力をはじめた。

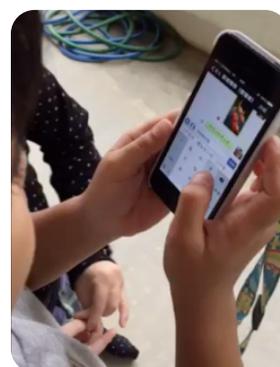
A児が自発的に入力する内容は、「おはよう」「こんにちは」「いっしょにあそぼう」「けーきおいしそう」などパターン化されたものである。しかし、担任に「ByTalk」の画面を指さして「メールする」と合図し、入力する内容を求めるなど、相手に何かを伝えたいという気持ちが育ってきている。送信後は、相手からの返信を楽しみに待つ様子も見られてきた。距離が離れていても、また、今ここで姿が見えない人でも、メールを通して繋がっている実感がわかりつつあるようだ。



▲A児に送った「By Talk」画面



▲受信した画面をたよりに目的のものを探すA児



▲フリック入力するA児

③ カレンダーアプリ「PhotoMemes」の活用

記録をとることが好きなA児は、「PhotoMemes」を立ち上げ、今日の日をタッチし、遊んだものや、その日に食べたものを撮影し、過去の記録を見て楽しむ様子が見られるようになった。撮影の時間ごとに記録されるため、時系列に並んだ写真を見ることで、日付や時間の感覚が育ち「後で」や「明日」がわかるようになってきた。家のスケジュールボードにも、一週間後の予定に「ひこうき、のる、あとで、ホテル」と書くなど、数週間先の予定も理解できるようになってきた。

また、母親が登校の時に着る洋服を一式揃えて撮影。「ようふく」というカレンダーを作成し、その中に収めることで、A児は朝起きたら画面を見ながら上着やズボン、靴下等を自分で準備することができるようになってきた。

PhotoMemesの活用は、A児にとって日記代わりになり、また、生活の手順表にもなった。



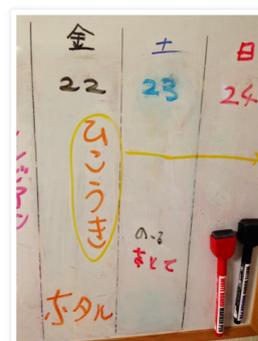
▲A児の母親が登校服を撮影



▲A児のiPhoneの画面



▲写真を見ながら登校の準備をするA児



▲家のスケジュールボードに一週間先の予定を書くA児

【報告者の気づきとエビデンス】

■ タブレット端末を活用することで、「伝わる実感」を得ることができ、伝える手段や内容が深まった

- ① 「伝わる」達成感が繰り返し得られることで、「伝える」楽しさを実感する様子が表情や行動からも見られ、したいことやほしいものを要求する場面が増えた。
- ② タブレット端末をVOCAとして活用することから、「書く」「話す」と伝える手段が増え、「名詞」だけでなく「動詞」を使って表現することもできるようになってきた。

■ SNSでことばのやりとりを見える化したことで、受信・発信を理解できつつある

- ① 「By Talk」を使った「宝探し」の中で、「相手のメッセージを『受け止める』と『楽しい』『嬉しい』ことがある」という経験を積み重ねることで、相手の発信に関心を持ち始め応えることができつつある。
- ② 担任に「おはよう」「あそぼう」等、簡単なことばをフリック入力で伝え、返信を待つ様子が見られることから、双方向のコミュニケーションが広がりつつあることがわかった。

■ 見通しをもつ手段として、カレンダーを活用できつつある

- ・カレンダーアプリを活用することで「後で」「明日」など時系列を理解できつつあり、1ヶ月先の予定を楽しみに待つことや、急な予定変更にも柔軟に対応できるようになりつつある。

▼ NC-プログラム 発達記録チャート (H25. ■ 4月 ■ 12月 / H26. ■ 12月)

年齢	0:6~1:0		1:0~2:0		2:0~3:0		3:0~4:0		4:0~5:0		5:0~6:0	
領域	1 下をさがす		2 入れる		3 型はめ		4 物のマッピング		5 絵の マッピング		6 色の マッピング	
1.視覚操作	1 下をさがす		2 入れる		3 型はめ		4 物のマッピング		5 絵の マッピング		6 色の マッピング	
7 積み	8 2片パズル		9 マッピング		10 6片パズル		11 迷路		12 ビーズ並べ		13 20片パズル	
14 点結び	1 1/2の記憶		3 1/3の記憶		4 1容量a		5 1容量b		6 2容量		7 3×3の記憶	
8 比較概念	9 身体		10 カテゴリー		11 用途理解		12 形容詞理解		13 前後左右		14 勝敗理解	
15 受身理解	1 音声模倣		2 身振り模倣		3 要求		4 名詞表出		5 動詞表出		6 2語文表出	
7 色名(4)	8 反対語類推		9 色名(1)		10 語頭音		11 文章説明		12 どうして		13 語の定義	
4.視覚	1 下をさがす		2 1/2の記憶		3 1/3の記憶		4 1容量a		5 1容量b		6 2容量	
7 3×3の記憶	8 3容量a		9 3容量b		10 4容量a		11 4容量b		1 音声模倣		2 単語模倣	
3 単語模倣	1 容量a		2 容量b		3 2語文復唱		4 容量		5 3語文復唱		6 容量	
4 容量	5 容量		6 容量		7 容量		8 容量		9 容量		10 容量	
1.絵への興味	2 絵の理解		3 物のマッピング		4 絵の マッピング		5 3型 マッピング		6 自分の名前がわかる		7 8型 マッピング	
8 音節分解	9 マッピング		10 10文字を読む		11 数字を読む		12 単語を読む		13 50文字を読む		1 点画	
2 なぐり描き	3 ぐるぐる描き		4 縦線・横線		5 模写(円)		6 点結び		7 ぬる(クレヨン)		8 V字/正方形	
9 模写(十字/三角形)	10 模写(なぞる)		11 模写(10文字)		12 数字を書く		13 模写(ひし形)		14 模写(50文字)		1 点画	
2 もう1つ	3 たくさん		4 分類		5 多少理解		6 1対1対応		7 数概念3		8 数概念6	
9 数唱20	10 数字並べ		11 加減算		12 数唱100		1 出す		2 入れる		3 つまむ	
4 逆さ	5 積み木		6 ビーズにする		7 (6個)		8 通し(4個)		9 折る(1回)		10 切る(1回)	
11 切る(直線)	12 貼る		13 切る(形)		14 切る(曲線)		15 ぬる(色鉛筆)		16 指で触る		17 折る(2回)	
1 座る	2 立つ		3 歩く		4 転がす		5 とぶ		6 投げる		7 ける	
8 前転	9 両手受け		10 両足とび		11 平均台		12 片足とび		13 片手受け		14 片足立ち	
15 なわとび	1 座る		2 立つ		3 歩く		4 転がす		5 とぶ		6 投げる	
7 ける	8 前転		9 両手受け		10 両足とび		11 平均台		12 片足とび		13 片手受け	
14 片足立ち	15 なわとび		1 座る		2 立つ		3 歩く		4 転がす		5 とぶ	
6 投げる	7 ける		8 前転		9 両手受け		10 両足とび		11 平均台		12 片足とび	
13 片手受け	14 片足立ち		15 なわとび		1 座る		2 立つ		3 歩く		4 転がす	
5 とぶ	6 投げる		7 ける		8 前転		9 両手受け		10 両足とび		11 平均台	
12 片足とび	13 片手受け		14 片足立ち		15 なわとび		1 座る		2 立つ		3 歩く	
4 転がす	5 とぶ		6 投げる		7 ける		8 前転		9 両手受け		10 両足とび	
11 平均台	12 片足とび		13 片手受け		14 片足立ち		15 なわとび		1 座る		2 立つ	
3 歩く	4 転がす		5 とぶ		6 投げる		7 ける		8 前転		9 両手受け	
10 両足とび	11 平均台		12 片足とび		13 片手受け		14 片足立ち		15 なわとび		1 座る	
2 立つ	3 歩く		4 転がす		5 とぶ		6 投げる		7 ける		8 前転	
9 両手受け	10 両足とび		11 平均台		12 片足とび		13 片手受け		14 片足立ち		15 なわとび	

NC-プログラム発達記録チャートの結果より、昨年度から「言語」と「記銘」の領域に少しの成長が見られた。しかし、カテゴリーの理解が進んだこと、検査に応答できるようになったことは、A児にとって大きな一歩であると考えます。

【今後の見通し】

- ① 保護者が iPad mini を購入し、今後も学習場面や日常生活での活用を継続する予定である。
- ② A児は規則性のあるものを好み、習得も早いことから、今後は保護者と協力しながら、プログラミングにもチャレンジさせていきたい。